

●シリーズ●わが町の文化財へ75

国重要文化財 木造 獅子頭つげたり（附 木造獅子頭一面）

昭和39年1月28日指定

この獅子頭は、今高野山の鎮守社であつた丹生神社たんじょうに伝わるもので、鎌倉時代の作品です。

右の頭の顎裏に「正安二年辛丑無射中旬彫刻此子獅之頭奉納／今八幡之宮随分丹誠神明納受矣／左兵衛藤原重幸」などの陰刻銘があります。

※正安二年一一三〇一年

※／は改行を示す

国内に残る年号の記された木造獅子頭としては、三重県鈴鹿市稲奈富神社の獅子頭（弘安3年・一二八〇）が最古で、それに次ぐ鎌倉時代の木造獅子頭として貴重であり、国の重要文化財に指定されています。

左側の附つげたり（付属の意）指定の獅子頭には銘はありませんが、やや時代が下り、南北朝時代のものと推定されています。いずれも黒漆塗りに金泥や朱による彩色が施されている古い獅子頭です。



左：附指定（南北朝時代） 右：本指定（鎌倉時代）

●シリーズ●わが町の文化財へ76

世羅町重要文化財 大平寺仏殿

昭和56年7月14日指定

興国山太平寺は、元真言宗の寺院で、甲立（安芸高田市甲田町）の五龍山にあつたものを、応安5年（一三七二）、小国の大坪に方外恵超が移設し開山しました。その後、明応10年（一五〇一）密伝真薄大和尚が臨済宗（禅宗）に改宗し、檀越芸州甲立城主宍戸河内守成頼により、現在地に建立され「備後禅三刹」と称えられたといひます。

山門をくぐると、向かつて左に禅宗独特の「仏殿」があります。現在の建物は元禄5年（一六九二）のもので、

臨済宗の開祖栄西が伝えたといい禅宗様式（唐様）の建築です。正面入口の棧さん唐戸が特徴的で四間四面の構造をしています。

堂内中央の須弥壇しゅみだんには、本尊である木造釈迦如来坐像（世羅町重要文化財）が安置されています。

